

現場で“安全側”に倒すためのポイント

自社でドローンを 運航する現場のための ドローン運航セルフ診断 チェックシート

(建設・測量・インフラ等)

作成者	株式会社ダイヤサービス
作成日	2025年11月9日
最終更新日	

目次

1.	はじめに（背景と目的）	2
2.	このシートの使い方	2
2-1.	対象とする現場	2
2-2.	チェック方法	2
2-3.	結果の活用	3
3.	ドローン運航セルフ診断チェック項目	3
3-1.	人：コンディションとチームワーク	3
3-2.	機体・手順：作動点検と標準化	3
3-3.	現場ルールとの“接続”	4
3-4.	ヒヤリハットと改善の流れ	4
4.	結果の見方と次の一步	5
4-1.	結果の見方	5
4-2.	すぐに取り組める「次の一步」の例	5
5.	作成・相談窓口のご案内	6

1. はじめに（背景と目的）

建設・測量をはじめとした、自社でドローンを運航する現場で、ドローンを活用する機会が増えています。

- 上空からの写真測量
- 施工状況の確認
- 現場周辺の状況把握 など

一方で、現場からは次のような声もよく聞かれます。

- 「ひとまず飛ばしているが、自社のルールと言えるものはまだない」
- 「機体やアプリの操作には慣れてきたが、安全面の判断は自己流になっている」
- 「元請や発注者から安全は大丈夫かと聞かれたときに、明確に説明できない」

足場や重機の安全管理については、長年の積み重ねがあり、手順書や KY の文化が浸透しています。一方で、同じ現場に入るドローンだけが「詳しい人に任せている」「なんとなく大丈夫な範囲で飛ばしている」といった状態になっていないでしょうか。

本チェックシートは、建設・測量・インフラ等で自社運航を行っている組織が、ドローン運航の現状のリスクを簡単に振り返るためのツールとして作成したものです。

すべてを一度に完璧に整えることを目的とするのではなく、まずは「どこが強みで、どこが弱点になっているのか」を把握し、次に取り組むべき一歩を見つけるための材料としてご活用ください。

2. このシートの使い方

2-1. 対象とする現場

次のような現場を想定しています。

- 土木・建築工事現場（造成・構造物・法面 等）
- 道路・河川・港湾等に関する工事・維持管理現場
- 測量・補償コンサル等の各種調査現場
- そのほか、自社でドローンを運航して点検・調査・記録等を行っている現場

社内の運航ルール全体を見る目的でも、特定の現場をイメージして判断する目的でも、どちらでも構いません。

2-2. チェック方法

各設問について、現状を踏まえながら、

- できている

- 一部のみできている
- できていない・分からない

のいずれかにチェックを付けてください。その際、以下のようにお考えいただくと、より実態に近い評価がしやすくなります。

できている	ほとんどの現場で、継続的に実施できている状態
一部のみできている	現場や担当者によって対応に差がある状態
できていない・分からない	特に決めておらず、担当者の判断に任せている状態

2-3. 結果の活用

最後の章に、「結果の見方」と「次の一步」の例を記載しています。

- まずは素直に現在地を確認する
 - すぐに取り組めそうな改善点を 1~2 個だけ決める
 - 必要に応じて、社内のルールや発注者との打合せに活かす
- という流れでご活用いただくことを想定しています。

3. ドローン運航セルフ診断チェック項目

3-1. 人：コンディションとチームワーク

Q1. 運航前に、操縦者・関係者のコンディションを確認している

- できている
- 一部のみ
- できていない・分からない

例：睡眠不足・体調不良・飲酒の有無・強いストレスなど、明らかに判断力を下げる要因がないかを、簡単なセルフチェック等で確認している。

Q2. 運航前に、現場メンバーで簡単なブリーフィングをしている

- できている
- 一部のみ
- できていない・分からない

例：その日の目的・飛行範囲・高度・危険箇所・中止基準などについて、操縦者・補助者・立会者間で 5~10 分程度の情報共有を行っている。

Q3. 運航中の声かけ（コールアウト）や報告のルールがある

- できている
- 一部のみ
- できていない・分からない

例：その日の目的・飛行範囲・高度・危険箇所・中止基準などについて、操縦者・補助者・立会者間で 5~10 分程度の情報共有を行っている。

3-2. 機体・手順：作動点検と標準化

Q4. 機体の作動点検手順が「人によって違わないように」標準化されている

- できている
- 一部のみ
- できていない・分からない

例：離陸前の機体・送信機・バッテリー・プロペラ等の点検項目が、A4一枚程度にまとめられており、現場で誰が見ても同じ順番で確認できる。

Q5. 現場での運航手順（離着陸・ホバリング・撮影等）が文書化されている

- できている 一部のみ できていない・分からない

例：離陸位置の決め方、ホバリングでの初期確認、撮影時の移動のしかた、着陸時の周囲確認などについて、最低限の「やり方」が社内で統一されている。

Q6. 気象条件や中止基準が、数値も含めて決められている

- できている 一部のみ できていない・分からない

例：風速・降雨・視程など、運航を中止または延期する条件が、目安の数値や現場の判断基準として整理されている。

3-3. 現場ルールとの“接続”

Q7. 現場（元請・所長等）の安全ルールと、ドローン運航のルールがつながっている

- できている 一部のみ できていない・分からない

例：KY・安全朝礼の中でドローン運航をどう扱うか、重機・車両との関係をどう整理するかについて、現場ルールと矛盾がないようにしている。

Q8. 元請・発注者と、ドローン運航に関する役割分担を事前にすり合わせている

- できている 一部のみ できていない・分からない

例：立入管理・近隣対応・運航中止の判断権限などについて、現場代理人や監督員と事前に打ち合わせを行っている。

Q9. 現場周辺の第三者リスク（通行人・隣接地等）を評価し、対策を取っている

- できている 一部のみ できていない・分からない

例：通学路・店舗出入口・駐車場等、人の出入りが多い場所を把握し、必要に応じて誘導・表示・時間帯の調整等を行っている。

3-4. ヒヤリハットと改善の流れ

Q10. ドローンに関するヒヤリハットを「記録」している

- できている 一部のみ できていない・分からない

例：突風で想定以上に流された、GPSの一時的な不安定、第三者が接近かけた等、事故には至らなかった事例を、簡単な様式で記録している。

Q11. 記録したヒヤリハットを、定期的に振り返る場がある

- できている 一部のみ できていない・分からない

例：月に一度など、社内または部署内でヒヤリハットを共有し、「今後どうするか」を簡単に話し合う時間を設けている。

Q12. ヒヤリハットやトラブル事例が、次の現場・次の運航ルールに反映されている

- できている 一部のみ できていない・分からない

例：特定の現場での経験をもとに、作動点検項目を追加したり、ブリーフィング内容やコールアウトの文言を見直したりしている。

4. 結果の見方と次の一步

4-1. 結果の見方

各設問について、

- 「できている」= ○
- 「一部のみできている」= △
- 「できていない・分からない」= ×

と見なして、○・△・× の数を数えてみてください。

以下はあくまで目安ですが、参考にしてください。

○ が 8~12 項目	ドローン運航に対して、一定の仕組みと改善のサイクルが回っている状態です。現場や担当者によるバラつきが残っていないかを確認し、標準化を進めると一層安定します。
○ が 4~7 項目	重要な部分は押さえられている一方で、「人」「現場ルールとの接続」「ヒヤリハットの活用」など、どこかの要素が弱くなっている可能性があります。優先順位を決めて、1~2 項目ずつ整えていくことをおすすめします。
○ が 3 項目以下	個々の操縦者のスキルや経験に依存している部分が多く、事故リスクや発注者からの質問に対する説明責任の両面で、課題が大きい状態と考えられます。 社内ルールの整備や、外部の視点を取り入れた運航体制の見直しをご検討ください。

4-2. すぐに取り組める「次の一步」の例

すべてを一度に見直す必要はありません。まずは、次のような一歩から始めていただくと良いと考えています。

(1) まずは「人」と「手順」の最低限の型を決める

- 運航前のコンディションチェック（簡易な I'M SAFE 等）
- 作動点検の順番（A4 一枚）
- ブリーフィングで必ず触れる項目（目的・範囲・中止基準 等）

この 3 点だけでも、社内で「共通の型」を持つことで、現場ごとのバラつきは大きく減らせます。

(2) 元請・発注者とのすり合わせシートを用意する

立入管理・運航中止基準・事故時の連絡フロー等を、事前打合せで確認するための項目を整理し、現場着手時の説明資料として活用することで、信頼性の高い運航体制を示すことが

できます。

(3) ヒヤリハットから「1つだけ改善」を積み上げる

月に一度、「今月はこの1点だけ改善しよう」と決めて、作動点検・ブリーフィング・運航ルールなどに反映していくことが、長期的な安全度向上につながります。

5. 作成・相談窓口のご案内

本確認シートは、ドローン運航事業および安全管理支援を行う**株式会社ダイヤサービス**によって作成されました。

当社では、建設・測量・インフラなど自社運航を行う各種現場において、

- 産業用ドローンの運航・オペレーション支援
 - 登録講習機関としての国家資格講習の運営
 - エアラインの考え方をベースにした、ノンテクニカルスキル・リスクマネジメント講習
 - ドローン応急手当講習
 - 事業者・発注者双方の立場を踏まえた、安全管理体制の構築支援
- などを行っております。

本シートをご活用いただいたうえで、

- 自社の運航体制を第三者の視点で整理してみたい
- ドローン運航の社内ルールを整備したい
- 発注者からの安全面の問い合わせに、きちんと説明できる状態にしたい

といったご要望がございましたら、オンラインでの簡易相談（30～45分）も承っております。

詳細につきましては、下記までお気軽にお問い合わせください。

株式会社ダイヤサービス

（住所）千葉県千葉市花見川区朝日ヶ丘5-27-28 畑町ビル3階

（電話番号）043-310-3454

（メールアドレス）info@daiyaservice.com

（WebサイトURL）<https://daiyaservice.com>